

火の見櫓

(題字は 柴谷八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
小角道男
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722



その時に備えて

地震による大きな被害が発生したとの想定で、9月14日(日)大正北小学校において、柴谷八尾市長をはじめ、防災関係機関・地域住民約1,300名が参加して、総合的な防災訓練が行われました。

大正分団は、自主防災組織と連携しての避難誘導・救出・初期消火訓練と、消防署と合同で延焼阻止消火訓練など本番さながらの訓練となりました。

訓練後の反省会では、発災直後は、倒壊家屋や交通網の寸断により、各防災機関の救援は直ぐには期待できず、今回の訓練のように自主防災組織と連携しての活動は非常に重要で有意義なものであったとの意見が多く聞かれました。

これからも地域防災の要である消防団として、地域住民と共に、必ず起こる地震災害に備え、被害を最小限に抑えられるよう、訓練に励んでいくことを決意しました。

大正分団 杉本

● 就任の挨拶 ●



八尾市消防団長
小角道男

紅葉の候、団員並びにご家族の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私こと、分団長皆様方のご推挙を賜り、6月18日付をもちまして、柴谷市長から辞令をいただき、消防団長に就任いたしました。

このことは、誠に身に余る光栄であるとともに、職責の重大さを痛感いたしましたところであります。

私は、この職におきましては浅学非才でございますが、八尾市消防団の発展と充実強化のため全力を傾注する所存でございますので、松村前団長同様に格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、日頃は消防団員の皆様には、郷土愛護と公共の福祉増進のために、昼夜を分たず火災予防や消火活動に、献身的なご努力を続けられ、ご活躍をいただいておりますことに対し感謝の意を表します。

今後、より一層消防団の充実を図るうえにおきましても、ご家族皆様方の惜しみないご支援が不可欠でありますので、第一線におかれる消防団員の使命を更に、ご理解いただきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

結びに、団員並びにご家族の皆様方のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

消防団員任命式



平成15年4月1日、消防団員の任命式が行われ、16名のニューフェースが誕生しました。

抱負を伺いますと、「まだ何もわからず不安な事ばかりですが、地域の安全を守るため、精一杯がんばります。」「先輩方に早く追いつけるよう訓練に励みます。」「迅速に消火活動の出来る団員を目指します。」「などなどの言葉を聞き、皆さんの「やる気」を感じました。

- ① 職業
- ② 趣味

新 団 員 紹 介



岩崎弘純
八尾分団

①自営業(燃糸)
②映画鑑賞・ゴルフ(練習中)



仲山忠司
龍華分団

①金型製造業
②キャンプ



小林邦章
大正分団

①電気店勤務
②サッカー観戦



辻野 勇
大正分団

①ドライバー
②野球

名物団員

大正分団

今回の名物団員は、自己紹介になりますが大正分団の辻井敏城です。仕事は、フードショップ(米屋)を営んでおり、体力と気力(根気)には自身があります。

消防団歴は、今年で入団13年目、班長として高橋分団長とともに、日々防災活動に一生懸命がんばっています。

それと、私にはもう一つ、一生懸命なことがあります。それは模型(ラジコン)飛行機です。

これには色々な楽しみがあります、先ず製作ですが、図面の上にもバルサ材を置き、ねじれやゆがみの無い様に組み立てて行きます。

飛行機によっては、2、3ヶ月以上かかる事もしばしばです。そして、出来上がった飛行機を約1時間かけて、紀ノ川の河川敷まで飛ばしに行きます。

初飛行や、離着陸の時には、いくつになってもドキドキ・ワクワクします。

先日、愛機エキストラ300(製作3ヶ月)が離陸直後、敵機(風)の攻撃を受け、右に大きく旋回、応戦(操縦ミス)むなしく、仲間の声援(へたくそ)のなか、和歌山の高空に散りました(涙・・・)。

私は、模型エンジンやサイレンの音、分団長の指示や、仲間の歓声に「いつも一生懸命」がなっています。



浅井 博
南高安分団

①会社員
②テニス・ゴルフ



當内昌弘
高安分団

①プラスチック成型業
②ゴルフ



中谷 巖
高安分団

①自動車板金塗装業
②バイク



辰己二郎
高安分団

①造園業
②読書



松井寿匡
高安分団

①造園業
②音楽鑑賞



稲田敏行
山本分団

①自動車販売業
②ドライブ



上野純孝
山本分団

①建設業
②ドライブ



岩崎利雄
山本分団

①プラスチック加工業
②特になし



藤崎 誠
志紀分団

①会社員
②スポーツ観戦



荒木孝典
志紀分団

①会社員
②読書



西村俊彦
志紀分団

①会社員
②ドライブ・車



松本健次
志紀分団

①公務員
②スキー・バイク

分団インフォメーション

久宝寺分団

ヤッホー 親睦旅行やで!

去る6月21・22日に山口方面へ親睦旅行を実施しました。分団恒例の旅行ですが、昨年は行事が重なり行く事が出来ませんでした。

ここ数年は、貸し切りバスを使用していましたが、今回は、新幹線「ひかりレールスター」を利用しました。

一日目は、レンタカーで秋吉台、萩へと向かい、高杉晋作誕生の地や、松蔭神社、城下町などを見学し宿泊地の湯本温泉では、宴会で昨年の分まで盛り上がり、夜遅くまで飲み明かしました。

二日目は、季節限定列車「コバルトブルー」で、のんびり日本海を眺めながら下関へと向かいました。

車内では、地元萩市の女性消防団員の方がおられ、一段と話が盛り上がりました。バス旅行では味

わえない出会いがあったように思えます。

下関では、関門人道トンネルを通り門司港のレトロな街並や、唐戸市場を訪れ、帰路に着きました。

今回の旅行は、分団で企画した旅行であるゆえ、全員がかなり疲れた様子でしたが、これからも一味違った楽しい旅行を企画し、より一層の親睦を深めて行きたいと思えます。
(福田)



曙川分団

自主防災組織発足式

5月25日(日)、曙川東小学校において、曙川東小学校区自主防災組織の発足式が行われました。

来賓には、柴谷市長、松倉消防長、杉田方面隊長と山口分団長が招かれ、主催者側の曙川東地区からは、自治振興委員長の石川泰男氏をはじめ18町会の町会長や地区委員・地域住民など総勢180名の皆様が出席しました。

この会の目的は、「自分たちの町は自分たちで守る」という精神のもと、自主的に防災活動を行い、災害の未然防止と災害発生時における被害を軽減することです。

その目的を参加者全員で確認し、最後に市長より石川氏に防災資機材目録が贈呈され発足式を終了しました。

その後グラウンドにおいて、通報



及び初期消火訓練、応急担架作成と搬送訓練が行われました。

訓練に参加した40歳の男性は、「物干し竿と毛布を使って簡単に担架を作れることには驚いた。非常に良い体験でした。」と語っていました。最後に、炊き出し訓練を行い、全員で非常食を食べました。

こうして曙川分団の管轄地域でまた一つ新たに自主防災組織が結成されたことはとても心強いことでもあります。

今後は、自主防災組織と消防団が連携し、一致団結して地域の安全を守って行きたいと思えます。

(吉村)

高安分団
訓練！

平成15年6月22日(日)、山畑総池において、斎当方面隊長を招き、西野分団長以下23名が参加し、規律訓練と車両・機材の操作訓練を実施しました。

なぜこのような訓練を実施したかという、近年、世代交代によって新しい団員が増えてきたことや、車両が入れ替わり操作方法等変わったことなどが挙げられます。

規律訓練においては、分団長指揮のもと、各個の動作と小隊訓練を繰り返して行いました。

その後、中部分隊が考案して行われた、車両・機材の操作訓練に移りました。4名編成で現場到着から撤収までを想定した訓練で、各分隊別に、配備車両を使用し、注意点を周りの者から指摘してもらいながら訓練を進めていきました。

最後に、新団員に放水時における筒先の反動力の体験とホースの巻き方・収納要領について実施し訓練を終えました。

こういった訓練でいつも感じることですが、頭の中で理解している

だけでは、いざと言う時なかなかうまく行動できません。体に覚えさせるまで繰り返し続けていく必要があります。

分団としても、こういった訓練を定例化して、消防団員としての規律と迅速な活動が出来るようになるようにがんばって行きたいと思っています。

(松田・田中)



志紀分団
役員研修及び
退団者慰労会

平成15年3月15・16日の二日間、松村勝美方面隊長、野中副分団長が退団されることに伴い、長年のご苦勞に感謝するとともに、今後のご健勝を祈るため研修会を行いました。

松村方面隊長からは、43年間に

わたる消防団活動が、とても有意義であり、充実したものであったと言っ挨拶と、4月からは、方面隊長として阪上分団長、また、分団長として西村副分団長が就任され新体制となるが、これまで同様、一致協力して団活動に臨んでもらいたい、今後ますますの志紀分団の活躍に期待している。との訓示を受けました。

また、野中副分団長からも長年の消防団活動にお礼の言葉がありました。

研修会では、今後の活動や、地域との連携強化などの話して盛り上がり、非常にスムーズな役員交代が出来、今後の志紀分団の運営にもすばらしい結果が得られると思います。

(増田・吉内)



南高安分団
連続不審火？



去る5月3日(土)午後1時30分頃、出動要請があり、現場(神宮寺3丁目)へ急行、幸い農小屋の一部を焼いただけで即鎮火。収納と同時に、無線が鳴り、次の現場(教興寺3丁目)へと急ぐ。現場へ向かう途中、黒煙がもうもうと立ち上がっていた。

分団としても、5線で放水に当たったが、西からの強い風もあり、火の勢いが強く、一時間放水してようやく鎮火。木造二階建て住宅4戸が全焼した。

この連続不審火以降、八尾市全域で特別警戒に入り、各分団とも毎夜巡回パトロールを行っていきます。

(黒岡)

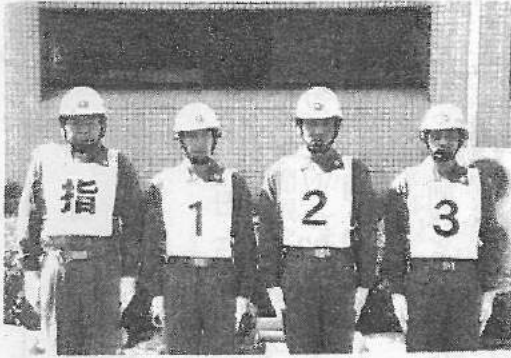
ポンプ操法訓練

9月7日(日) 大阪府立消防学校において、第47回大阪府消防大会が行われました。

この大会に南高安分団が中河内地区代表として、小型ポンプ操法の部に出場し、各支部代表のチームと競い合いました。

惜しくも入賞はのがしたものの、堂々とした操法を見せてくれました。この大会に向けて坂上分団長を筆頭に、選手として、

- 指揮者 畑中 喜幸
- 1番員 辻野 茂樹
- 2番員 馬谷 英明
- 3番員 馬谷 隆喜



その他団員40人が一丸となって、消防本部の指導の下、猛暑の中連日連夜訓練に励んできました。

この訓練を成し遂げた事により団員一人ひとりの技術と団結力が向上し、より一層地域防災活動に取組んで行けると思っています。

南高安分団 坂上節



初任・幹部教養

5月25日(日) 大阪府立消防学校にて、平成15年度初任・幹部教養研修が行われました。

はじめに消防の歴史・組織及び制度の講義を受け、その後初任科は訓練礼式などの基礎技術を修得しました。

私の受講した幹部科は、火災防ぎよの講習と部隊指揮の実習でした。火災防ぎよとは、人命救助を最優先し延焼防止を主とするもの

です。この講習により火災時に発生する熱、煙、有毒ガス(一酸化炭素など)の恐ろしさを改めて理解し、初期消火の大切さを思い知りました。

部隊指揮では、小隊に号令をかけるという初めての経験をしましたが、緊張の余り失敗する場面もありました。小隊は指揮者の号令で動くので、その正確さと力強さが必要であることを実感しました。

この研修で学び経験したことを無駄にせず、自身の今後の消防団活動に役立たせたいと思います。

曙川分団 吉村



八消会ゴルフコンペ

消防団厚生事業の八消会ゴルフコンペが、平成15年6月6日(金)奈良県オークモントゴルフクラブで、総勢50名が参加し、快晴の下絶好のコンディションでプレーがスタート。

日頃の練習の成果を十二分に発揮出来た人、また、ゴルフ場の「わな」にまんまとはまってしまった人、「池ボチャ」をこよなく愛した人など、皆さん楽しい一日を過ごす事が出来たと思います。

次回コンペのスタートはすでに始まっております。消防団活動と同様に目標に向って頑張ります。

- 上位入賞者は次のとおりです。
- 優勝 坂井弘明(高安分団)
- 準優勝 岩井孝男(八尾分団)
- 三位 梶本成俊(山本分団)

志紀分団 西口勲



地域と共に

4月初めから、大阪府南部を中心に多発している放火が、八尾市内でも激増し、4月末から5月にかけて、我が八尾分団の管轄区域でも十数件発生しました。

発見が早く、ぼや程度で済んだものがほとんどですが、住宅を焼損した火災もありました。幸い、死傷者が出なかつたことがなによりです。

この連続放火を防ぐため、消防団各分団は、市内全域の警戒パトロールを実施、我が分団も放火防止の広報や、不審者の警戒など、特別巡回を行い放火防止に努めました。

これが功を奏したのか、我が管轄区域ではそれ以降は発生しておりません。

この警戒パトロールを通じて、住民の方々からの励ましの声を頂きました。また、被害に遭われた方の話などを聞き、やるせない腹立たしさが込み上げてきました。

この卑劣な放火を許さないよう、これからも地域住民の皆様方と共に、放火されにくい環境作りを励もうと思っております。

八尾分団 小川



恩智川水防訓練

5月15日(木) 当市消防団20名(高安・山本分団より選抜)及び東大阪市消防団60名の計80名が参加して、福万寺治水緑地において恩智川水防訓練が行われました。

訓練は、土のう作りに始まり、4種類の水防工法が施行され、我が八尾市消防団は、斎当小隊長指揮のもと、「積み土のう工」を担当しました。

当日は、5月というのに梅雨空のような曇りでいつ雨が降り出すのかと思われるような中、小隊長の号令のもと、訓練が開始されました。訓

練とは言い、各団員は実際の災害を頭の中で想定し、真剣に訓練に取り組み、短時間で積み土のう工を完成させました。

恩智川は、今でこそこのような立派な治水施設が出来、水害には無縁のようにも感じられますが、自然の力は人間の予想を遙かに越えるものであり、災害が発生しないという保証もありません。そして、ひとたび災害が発生した時には、この訓練が役立つものであり、貴重な体験をさせて頂きました。

また、人間一人の力は微々たるものでありますが、災害から守ると言う使命のもと一致団結すれば大きな

力になるということを再確認いたしました。最後に私も昭和38年生まれで実際の災害の経験はありませんが、今後も災害のない事を祈ります。

山本分団 堤下洋



まち火消 川柳コーナー

今回は、皆様よりお寄せいただいた川柳の中から5句、不審火が続いたせいか関連の川柳が多くありました。

娘には 出勤時には 胸をはり

ダメオヤジ

何してる お前はだれだ チャッカマン

科学消火隊

放火魔か? 現場と見ている 野次馬か?

迷探偵

阪神の ウイリヤムスも 火消し役

隠れトラ吉

林先で サイレン聞いたら 走ってる

生束団長

家庭の防火対策 (石油ストーブ編)

秋も深まり、ストーブの恋しい季節となりました！
ストーブは直接火を取り扱うだけに危険度は高いものです。
正しい使い方を身につけて、安全に心がけましょう。



ストーブをカーテンや家具に近づけない。

洗濯物をストーブの上に干さない。

部屋に誰もいないときは、ストーブを必ず消す。

石油ストーブは確実に火が消えてから給油する。

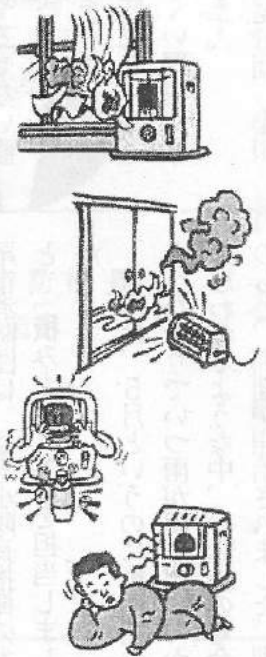
ストーブのまわりにスプレー缶を置かない。

シーズン前に点検整備を行う。

ストーブをつけたまま寝ない。

灯油であることを確かめてから給油する。

ストーブに点火したら炎の調整・確認をする。



(市民スポーツ祭での防火広報)

ふるさと消防団活性化助成事業
伝統的な「ハッピー」を購入
当消防団では、平成8年度から
活性化を進めており、様々な取り
組みを行って来ました。
15年度は、その事業の一環とし
て、ふるさと消防団活性化助成事
業により、伝統的で、若者にも人
気のある「ハッピー」を購入しまし
た。
この「ハッピー」は、各分団に配
布し、地域での行事等に活用して
頂き、地域密着性をより高めると
共に、消防団への理解とPRを行
い、青年層の入団促進に役立てれ
ばと考えています。

編集後記
「火の見櫓」第12号、皆様の
おかげをもちまして無事発刊す
る事が出来ました。次号も大変
だと思いますが、ご協力お願い
します。
(志村)

委員長	高安分団	小西光
副委員長	八尾分団	小川元
委員	久宝寺分団	志村武
	西部分団	福田正
	八尾分団	嶋林正
	龍華分団	小笠原志
	大正分団	武広
	曙川分団	岡田真
	南高安分団	辻井一
		杉本啓
		吉村善
		藤井節
		坂上隆
		馬谷明
		松岡正
		黒岡孝
		松田均
		西田昭
		岩田伸
		増田明
		志田直
		吉内之